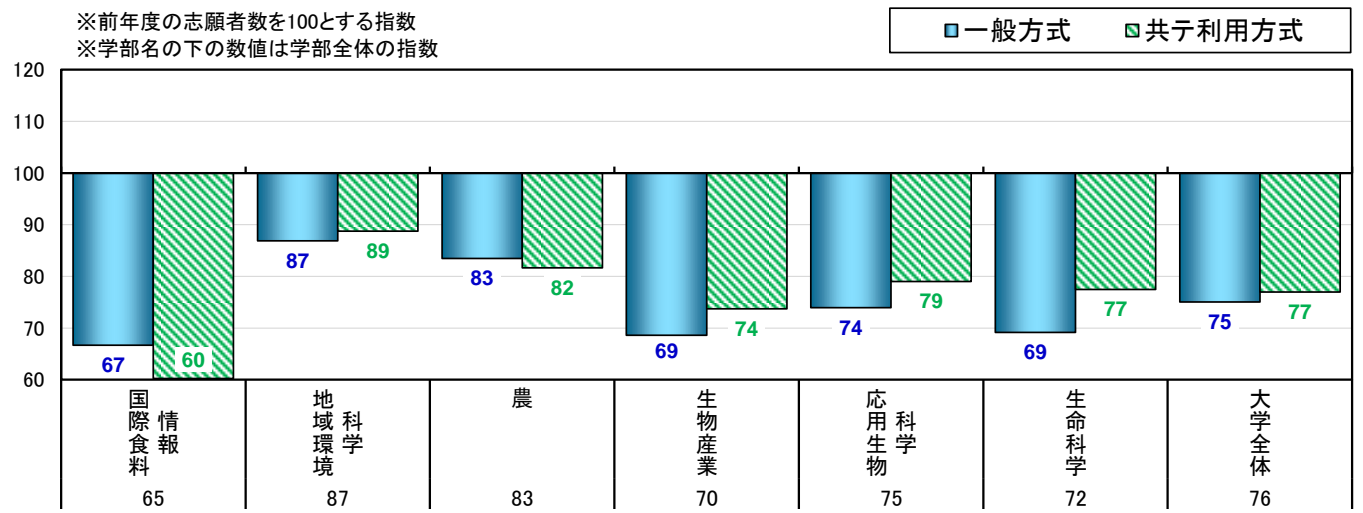


2021 年度入試状況分析【私立大】

東京農業大：大学全体では4年連続減少

一般：-4,986人 共テ：-2,155人



入試変更点	募集人員：農(生物資源開発)…<A日程>74人→72人 応用生物科学(農芸化学)…<A日程>98人→96人 (醸造科学)…<A日程>96人→94人 (食品安全健康)…<A日程>98人→96人 (栄養科学)…<A日程>77人→76人 生物産業(北方圏農学)…<A日程>40人→43人 (海洋水産)…<A日程>40人→41人 (食香料化学)…<A日程>40人→45人 (自然資源経営)…<A日程>34人→40人 生命科学(バイオサイエンス)…<A日程>98人→95人 (分子生命科学)…<A日程>94人→93人
-------	---

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較
 大学全体では、系統への低い人気も影響して、7,141人(76)の大幅減少で4年連続減少。方式別では、一般方式は4,996人(75)の大幅減少で4年連続減少、共通テスト利用方式は2,155人(77)の大幅減少で2年ぶりの減少。

- <一般方式>
- 国際食料情報(67)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科全てが大幅減少し、特に(国際農業開発)(52)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減に近い大幅減少。
 - 地域環境科学(87)は、2年連続減少。学科別では、4学科全てが減少し、特に(森林総合科学)(78)、(造園科学)(82)は大幅減少。
 - 農(83)は、3年連続大幅減少。学科別では、(デザイン農)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、他の3学科はいずれも大幅減少。
 - 生物産業(69)は、北海道オホーツクキャンパス設置であることから、コロナ禍による遠距離移動敬遠の影響もあって、大幅減少で7年連続減少。学科別では、4学科が全て大幅減少。
 - 応用生物科学(74)は、2017年度の改組後、4年連続減少。学科別では、4学科全てが大幅減少。
 - 生命科学(69)は、大幅減少で2年ぶりの減少。学科別では、3学科全てが大幅減少。特に(分子微生物)(59)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

- <共通テスト利用方式>
- 国際食料情報(60)は、大幅減少で3年ぶりの減少。4学科全てが大幅減少し、特に(国際農業開発)(46)は前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少。
 - 地域環境科学(89)は、減少で2年連続減少。学科別では、(生産環境工)(132)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。他の3学科はいずれも大幅減少。
 - 農(82)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(デザイン農)(108)は前年度大幅減少の反動で増加。他の3学科はいずれも大幅減少。
 - 生物産業(74)は、北海道オホーツクキャンパス設置であることから、コロナ禍による遠距離移動敬遠の影響もあって、大幅減少で2年ぶりの減少。学科別では、4学科全てが減少し、特に(北方圏農)(56)は2018年度改組後初めての減少で大幅減少。
 - 応用生物科学(79)は、大幅減少で2年ぶりの減少。学科別では、4学科全てが減少で、(栄養科学)(87)を除いた3学科はいずれも大幅減少。
 - 生命科学(77)は、大幅減少で2年ぶりの減少。学科別では、(分子生命化学)(98)は微減だが、他の2学科は(分子微生物)(69)、(バイオサイエンス)(71)といずれも大幅減少。